
ナイフを刺す話

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

「クハハハハハハハハハハハッ ハハアハハハハハハハハハハハハ アハハハ」

「壊れたか？」

「ああ、壊れもするさ。この興奮のお前に分かるか！」

「分らん。分かつたも無い」

男が二人、ナイフを握り対峙していた。

「どこを刺してやるうか？ここか？ここなのか？それともここか？んー？」

「どこでもいい、さっさと刺せよ」

一人の男、二ノ宮は冷たく言い放つ。

その冷徹な一言に激昂するもう一人の男、御影。

「どこでもいい？何を言ってるやがる？そんな訳ないだろ」

鼻で笑う二ノ宮。

そして、

「どうせ、どこ刺しても同じなんだから。お前はまた負ける。さっきと同じように」

二ノ宮はナイフを御影に向けて、宣告した。

「この俺が負ける。そんな事が何度もあつてたまるか。俺は知つたんだ。あの敗北から学んだんだ。絶対に勝つ方法を！」

「ふーん。そうなのか？じゃあ、見せてみるよ。どうせ今度もお前の負けだと思うけど」

「ああ、見せてやるぜ。俺の本気を！本気中の本気を！」

「前も聞いたぜ、その台詞」

「いぬわー！」「わんわん」

御影はターゲットに狙いを定め、ナイフを構えた。

「これで終わりだあああああ！！！！」

御影はナイフを刺した。

その瞬間、樽の中にいた髭親父はバネの力で飛んでいった。

「お前の負けだ」

「何でだ！！何で、ここなら絶対大丈夫だと思ったのに。もう一回だ！もう一回勝負しろ！」

「これで一体何回目だと思ってるんだ」

「次で十三回目だ」

「もう俺、飽きた。止めよぜ」

「逃げるのか、そうか、逃げるんだな。尻尾を振って逃げていくがいい。この負け犬が！見てた？勝ったよ、父さん。僕は仇を討ったんだ・・・」

「いつ俺がお前の親父とやり合ったんだ？頭いてえわ・・・もう仕様がねえな。もう一回だけだぞ」

「ああ、今度こそ、今度こそは！！」

そして、御影はまた負けるのであった。

こうして楽しい夜は過ぎていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8736i/>

ナイフを刺す話

2011年1月18日09時48分発行